

人権「敬天愛人」校長講話



今日の四字熟語は「^{けいてんあいじん}敬天愛人」です。この言葉は、西郷隆盛が好きだった言葉で、人から頼まれると好んで「敬天愛人」と大きく筆で書いて贈っていたそうです。西郷隆盛は、明治新政府を打ち立てた偉人として今も人々から愛されています。上野公園には犬を連れた彼の銅像が立っていますが、まるで相撲取りのようなどっしりとしたその姿を、皆さんも一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

江戸から明治に変わる時代の転換期に、リーダーとして活躍した西郷隆盛。調布にゆかりのある武者小路実篤は、「彼のいるところはなんとなく明るい。」と書いています。そして、「こせこせしたところや、自分さえよければいいという態度がなく、たえず大きな目でものを見ていた。維新の時代に彼のような人間がいてくれたことは、日本にとってとても幸せだった。」とも書いています。

そんな彼の魅力的な人柄は、この「敬天愛人」という言葉にも表れていると思います。「敬天」とは天を敬うという意味、「愛人」とは人を愛するということです。つまり、「天は他人にも自分にも等しく愛を与えてくれる。そんな天を心から敬うことを忘れないでいよう。そして、自分も、自分を大事にするのと同じように、他人をも大事にする心をつつまでも忘れないでいよう。」という意味があります。

周りにいる人たちをいつも大切に考えていたからこそ、西郷隆盛を慕って多くの人たちが命を差し出し、新しい時代のために戦ったのだと思います。彼の広い心が、人々に勇気を与えてくれました。

広い心といえば、私は以前、高幡不動尊の住職さんからこんな言葉を聞いたことがあります。それは、広い心をもつ人とはどんな人かというお話です。心の広い人はどんな人だと思いませんか？ それは、たとえばみんなが集まったとき、まず真っ先に一番立場の弱い人のことを考えられる、そういう人のことだとおっしゃいました。たとえば小さな子ども、力の弱い老人、病気の人、周りからいじめられている人、なかなか発言できない人……心の空間が広い人は、心に余裕がありますから、真っ先にそういう人を見つけ、その人たちのことを思いやります。どこにいても、まず立場の弱い人に合わせて、みんなが幸せになる道を考えることが本当に大事なことなのです。皆さんもぜひそうしてほしいと思います。

このことは、現在でいうところの「人権」の考え方と共通していると思います。人が人として当たり前生きる権利を「人権」といいます。つまり、世の中の少数と言われる人たちにも等しく接し、相手を尊重してともに社会を作る気持ちのことです。これは「敬天愛人」の精神に通じると思います。皆さんはぜひ、広い心をもち、人権が守られた豊かな社会を築いてほしいと願っています。

さて、少し話は変わりますが、皆さんの身近にある、人権を侵害する行為として「体罰」「性暴力」というのがあります。1学期の終業式にもお話しましたが、もしそういうことがあれば、勇気を出して信頼できる大人に相談をしてください。また、今日、相談用のプリントを配りますので、それを使って郵送やメールなどで相談することもできます。「体罰」や「性暴力」を受けた人は一人で抱え込まず必ず相談をしてください。

